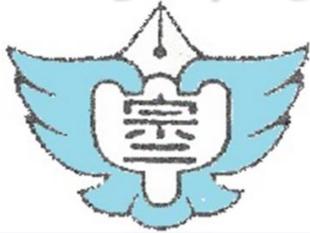


宗岡二中だより 3月号



令和8年3月2日

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

我必ず聖(ひじり)に非(あら)ず。彼(かれ)必ず愚(おろ)かに非ず。共に是(こ)れ凡夫(ただひと)ならくのみ。

校長 伊藤大輔

樹木を切るとできる断面の模様を年輪と言います。バウムクーヘンというドイツ伝統菓子のモチーフでもあります。年輪は気温の変化のある地域で育った樹木にのみできます。年輪の円の数は樹木の年齢を示します。そして、年輪の幅は樹木が一年間にどれくらい成長したかを示します。色は白っぽい部分と黒っぽい部分とに分かれます。白い部分の幅は広く、温暖な季節に成長した跡です。黒い部分の幅は狭く、冷涼な季節の成長が表れています。木材として利用するには色の濃い部分が重宝されます。白い部分よりも強度が勝るのです。白い部分は幹を太くし、黒い部分は幹を強くします。

では、みなさんはこの一年間で成長しましたか。「成長しました」、と答える人は年輪の白い部分、樹木の幹をぐんぐん太くするような変化を起こした人です。自信をもって次の舞台に挑んでください。「なんの成長もなかった」と思う人はがっかりしないでください。私の考えでは、こういう人も、しっかり成長しています。そもそも自分の成長は実感しにくいし、気づきにくいものです。「成長どころか悩んでばかりいた。失敗続きだった。」と思う人にも、同じことが言えます。そのことに気付くこと自体が立派な成長です。勉強がはかどらない、人間関係がうまくいかない、将来が不安だ、やる気が起きない、などなど人は日々様々悩みを抱えて生きています。悩めば悩むほど人は成長すると私は思います。たくさん悩んだ分、周りの人に優しくなれたり、自分の芯を強く育てたりできるからです。悩む人は年輪の黒く濃い部分が成長しているのです。

令和七年度終了まであとわずかです。ここまで成長した自分の輪郭をしっかりとつかんでください。

何ができるようになったのか、何ができなかったのか、ありのままの自分を捉えてください。その自覚こそが成長です。悩みや苦しみが無かった人はそのことに悩んでください。悩むのは人間の特権です。

最後に私の話で今号を締めます。高校に通っていたころ、毎朝守衛さんと朝の挨拶を交わしました。卒業の日、友人数人と守衛さんのもとに別れの挨拶に行きました。誰からともなく「最後に何か一言お願いします。」と頼みました。守衛さんは、ぼそりと言いました。「ふつうでいなさい。ふつうであることが、実はたいへんにむずかしい。」と。「卒業おめでとう」や「この先も頑張れ」という饞(はなむけ)ではありませんでした。だから、その言葉を、そのときの情景を、守衛さんの笑顔を、今でもはっきり覚えているのです。卒業式に大変な宿題を出されたなどの記憶とともに。三十年以上も前の話です。「ふつう」とは何なのか未だに答えは見付かりません。歳はとりましたが、まだまだ未熟との自覚は、いよいよ大きくなっています。なにせ十八歳のときに出された宿題の答えを未だに出せないでいるのですから。

標題は聖徳太子が制定した十七条憲法第十条の一部です。「私は必ずしも道理に通じた聖人ではありません。また、彼は必ずしも道理の通じない愚かな人ではありません。人は共に凡夫(ぼんぷ)です。」という意味です。凡夫とは「ふつうのひと」を指します。どんな人間も煩(わずら)いや悩みの中に生きる「凡夫」であるとの深い人間観です。ふつうであるから悩むんだと思える言葉です。皆さんの卒業・進級を期に宗岡二中は新たな年輪を重ねます。令和七年度という年輪を仕上げる覚悟をもって、全員で最後のひと月を過ごしましょう。